

各 位

唐津農林事務所東松浦農業振興センター長

稲作情報第5号（普通期水稻）

1. 気象概要（アメダス：唐津地点）

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		本年値 ℃	平年値 ℃	平年差 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	平年差 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	平年差 ℃	本年値 mm	平年値 mm	平年差 (%)	本年値 時間	平年値 時間	平年差 (%)
7月	1	26.0	24.7	1.3	29.9	28.0	1.9	23.3	22.2	1.1	176.5	87.3	202	11.2	15.2	74
	2	26.6	25.3	1.3	29.9	28.7	1.2	23.9	22.8	1.1	280.5	92.9	302	12.6	19.9	63
	3	28.5	26.0	2.5	31.8	29.6	2.2	26.0	23.2	2.8	3.0	74.1	4	21.1	26.4	80
	4	27.8	26.6	1.2	32.7	30.5	2.2	24.9	23.6	1.3	19.0	45.1	42	29.5	31.7	93
	5	27.5	27.3	0.2	32.9	31.4	1.5	24.2	24.3	-0.1	56.5	26.5	213	31.2	35.6	88
	6	28.4	28.0	0.4	34.1	32.2	1.9	24.5	24.9	-0.4	10.5	24.5	43	55.6	47.6	117

7月25日の梅雨明け後、晴天が続いており、降水量が少なく、日照時間が長くなっている。今後も高温傾向が続く予報である。

2. 生育状況（調査日：8月2日）

品種 設置場所	年次	出穂日	止葉葉位	概要
コシヒカリ 唐津市 巖木町天川 5/14 移植 標高 650m	本年値	8月1日	12.7	出穂は平年より1日早くなった 止葉葉位は-0.1となった
	平年値	8月2日	12.8	
	平年比	-1日	-0.1	

項目 品種 設置場所	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概要
夢しずく 唐津市相知町 伊岐佐 6/12 移植 標高 70m	本年値	82.9	301	12.3	41.1	・茎数はやや少ない ・葉色は濃い ※平年値は佐志の H29～ R2 の平年値のため参考
	平年値 ※	82.5	335	12.3	37.2	
項目 品種 設置場所	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主幹 出葉数 L	葉色 SPAD	概要
さがびより 唐津市相知町 相知 6/20 移植	本年値	68.2	415	12.1	39.0	・草丈は平年並み ・茎数は少ない ・出葉は平年並み ・葉色は薄い
	平年値	65.7	528	11.8	41.4	
	平年比	104	79	+0.4	-2.3	

(1) 山間早植え

作況ほの「コシヒカリ」は 8 月 1 日に出穂期を迎えた（平年より 1 日早い）。

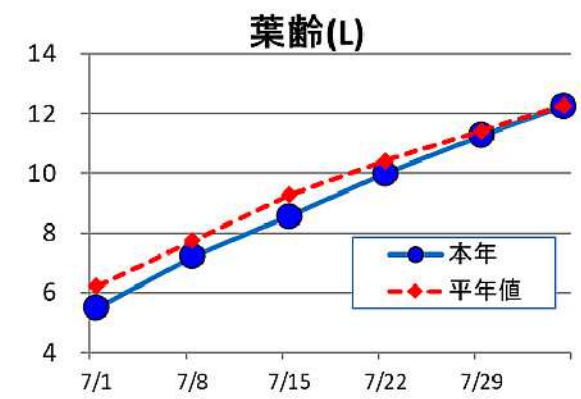
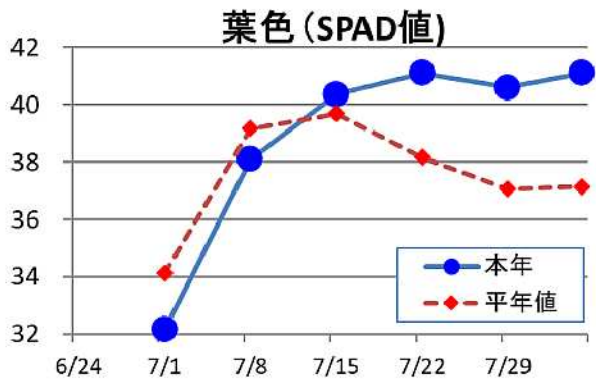
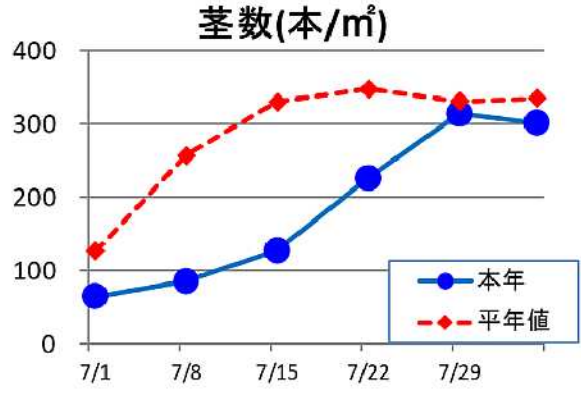
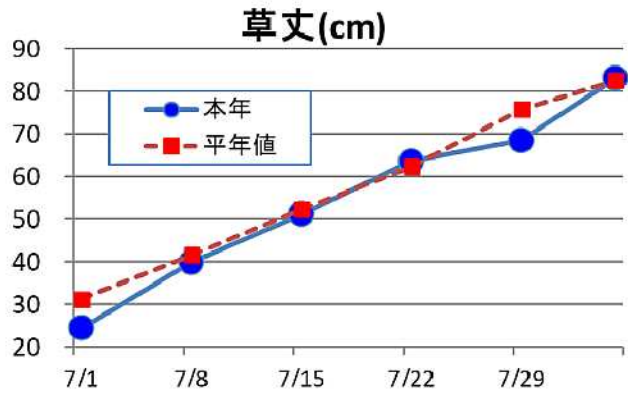
7 月 25 日に行った作況ほにおける調査では 25 株のはらい落としにより、トビイロウンカ幼虫が 2 頭、セジロウンカ幼虫が 1 頭見つかっている。

(2) 普通期水稻

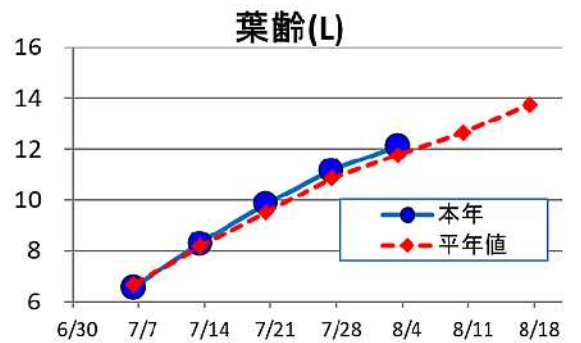
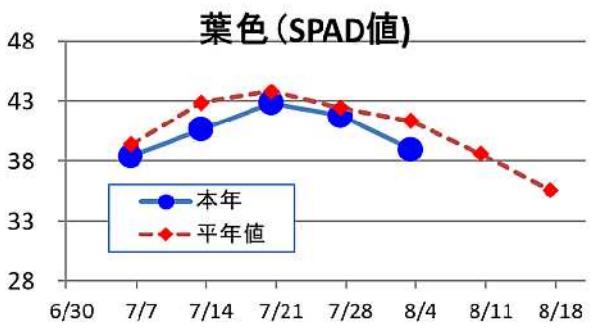
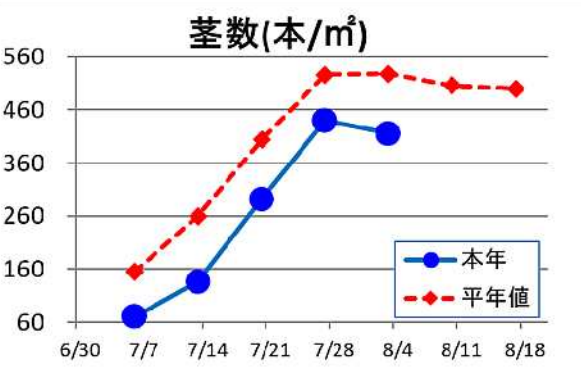
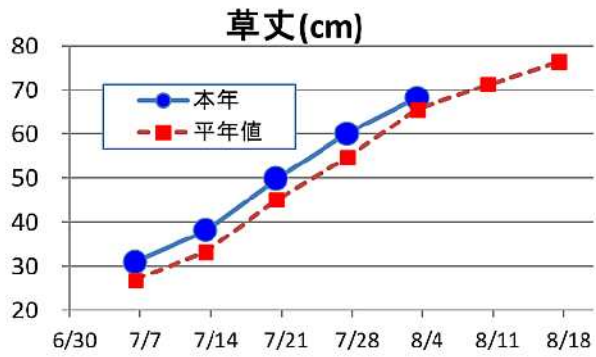
「夢しずく」：6 月上旬に移植されたものは、茎数の発生が順調で最高分けつ期～穂孕み期となっている。6 月中旬以降移植については、茎数の回復が見られたが、依然として平年と比べると少ない傾向にある。8 月 1 日に行った作況ほにおける調査ではウンカ類は見つからなかった。

「さがびより」：平年と比べて茎数が少なく、葉色は濃く推移している。8 月 1 日に行った作況ほにおける調査ではセジロウンカの老齢幼虫が 2 頭、イネウンカ類の若齢幼虫が 4 頭見つかっている。

◎「夢しずく」作況圃の生育グラフ(相知町伊岐佐)



「さがびより」作況圃の生育グラフ(相知町相知)



3. 今後の管理

(1) 山間早植え

①栽培管理

・穂揃期はイネが開花し受粉をおこなうため、イネの一生の中で最も水を必要とする時期である。この時期に水が不足すると子実の充実不足につながる。出穂期から穂揃期水を切らさないよう、圃場の水管理を徹底する。

・台風 6 号が接近してきており、出穂期～穂ぞろい期は強風による稲体へのダメージが大きい時期であるため、深水管理を徹底する。

②病害虫管理

・「いもち病」の病斑が見られる場合は、地域の栽培暦に従って速やかに防除を行う。

特に上位葉に病斑がある場合は穂いもちが懸念されるので出穂前の防除を行う。

ただし、特別栽培認証制度を申請した圃場では、農薬成分カウント数に注意する。

・本年はトビイロウンカの飛来が連続しており、多発生が懸念される。発生予察情報、ほ場の発生状況を参考に適期防除に努める。

いもち病防除薬剤

薬剤名 (成分名)	本剤の 使用回数	本成分の総使用回数	使用時期	注意事項
トライフロアブル (テブフロキン)	2回以内	2回以内	収穫14日前まで	
オリブライト1キロ粒剤 (メミノストロビン)	1回以内	1回以内	出穂10日前まで	湛水散布
カスミン液剤 (カスガマイシン)	2回以内	本田2回以内	穂ぞろい期まで	
コラトップ粒剤5 (ピロキロン)	2回以内	本田2回以内	葉いもち: 初発10日前～初発時 穂いもち: 出穂30～5日前まで	湛水散布
ビーム粉剤DL (トリシクラゾール)	3回以内	本田3回以内	収穫7日前まで	穂ばらみ期での 散布効果が高い

(2) 普通期水稻

①栽培管理

・台風 6 号が接近してきており、強風が吹くと稲体からの蒸散が大きくなるので、台風接近前に深水管理とし、通過後に速やかに水の入れ替えを行い、再び間断灌水に移行する。

・「夢しずく」は中干しから間断灌水に移行する。

・「さがびより」は中干しの時期にあたる。有効茎数 20 本/株程度が確保された圃場では中干しに入る。

・梅雨明けし、高温と乾燥が予想される。深い亀裂が入り、土壌が白乾するほどの強い中干しは、断根につながるため、中干しの強度は、軽く足跡がつく程度の黒乾燥状態を保つ程度とする。

【中干しの目的】

- ① 無効茎の発生防止や下位節間の伸張防止
- ② 窒素制限による生育量の適正化
- ③ 有害物質の除去及び土壌酸化による根の健全化
- ④ 地耐力を高め倒伏を防ぐ

②「さがびより」、「ヒノヒカリ」穂肥診断

「さがびより」、「ヒノヒカリ」は穂肥施用の時期となってくる。

幼穂長を確認して下記の穂肥診断基準に基づいて穂肥を施用する。

1)「ヒノヒカリ」の穂肥診断基準

必要以上に籾数を付け過ぎない診断が必要

幼穂形成 始期草丈	葉色		施用時期		窒素成分 kg/10a
	群落	SPAD	出穂前	幼穂長	
80cm以下	3.0以下	34以下	25-23	1-2mm	3.0
	3.0-3.3	35-38	22-20	3-5mm	3.0
	3.5-3.8	39-40	20-16	5-15mm	2.0
	3.8以上	40以上	16-12	15-30mm	1.0以下
80cm以上	3.0-3.3	35-38	22-20	3-5mm	2.0
	3.5-3.8	39-40	20-16	5-15mm	1.5
	3.8以上	40以上	16-12	15-30mm	1.0以下

草丈は幼穂形成始期(1mm)を基点に前後1日当たり1cm増減する。

○ヒノヒカリ出穂前日数と幼穂伸長

出穂前日数(日)	主稈の幼穂長(mm)
-23~ -20	1~3
-20~ -18	3~5
-18~ -12	5~80
-12~ -10	80~100
-7~0	100~200

←幼穂形成始期

←穂肥施用時期の目安

2)「さがびより」の穂肥診断基準

早過ぎる穂肥は籾数の過剰につながるので注意する。

幼穂形成 始期草丈	葉色		施用時期		施用量
	群落	SPAD	出穂前	幼穂長	窒素成分 kg/10a
75cm 以下	3.0 以下	33 以下	20-18	5mm	3.0
	3.0-3.3	33-37	18-17	10mm	3.0
	3.5-3.8	37-38	17-16	15mm	2.0
	3.8 以上	39 以上	施用しない		
75 ~ 80cm	3.0-3.3	36 以下	18-16	10~15mm	1.5
80cm 以上	3.5 以上	37 以上	施用しない		
80cm 以上	施用しない				

草丈は幼穂形成始期(1mm)を基点に前後1日当たり1cm増減する。

○さがびより出穂前日数と幼穂伸長

出穂前日数(日)	主稈の幼穂長(mm)	
-22	1	←幼穂形成始期
-20~ -18	3~5	
-18~ -16	10~15	←穂肥施用時期の目安
-16~ -12	5~ 80	
-12~ -10	80~100	
-10~0	100~200	

③病害虫・雑草管理

- ・置き苗はいもち病の発生源となるため早急に撤去する。
- ・初期除草剤のとりこぼしがあるほ場では、中後期除草剤の対応に遅れないようにする。
なお、特裁申請している圃場では農薬成分カウント数に注意する。
- ・本年はトビイロウンカの飛来が連続しており、圃場内にも発生が見られる。発生予察情報、ほ場の発生状況を参考に適期防除に努める。
- ・地域によってはコブノメイガが発生している圃場が見られる。圃場によって発生状況が異なるので、発蛾最盛期(成虫発生盛期)を確認し、その1週間後に防除を行う。

トビイロウンカ発生予測（佐賀県農業技術防除センター情報を改編）

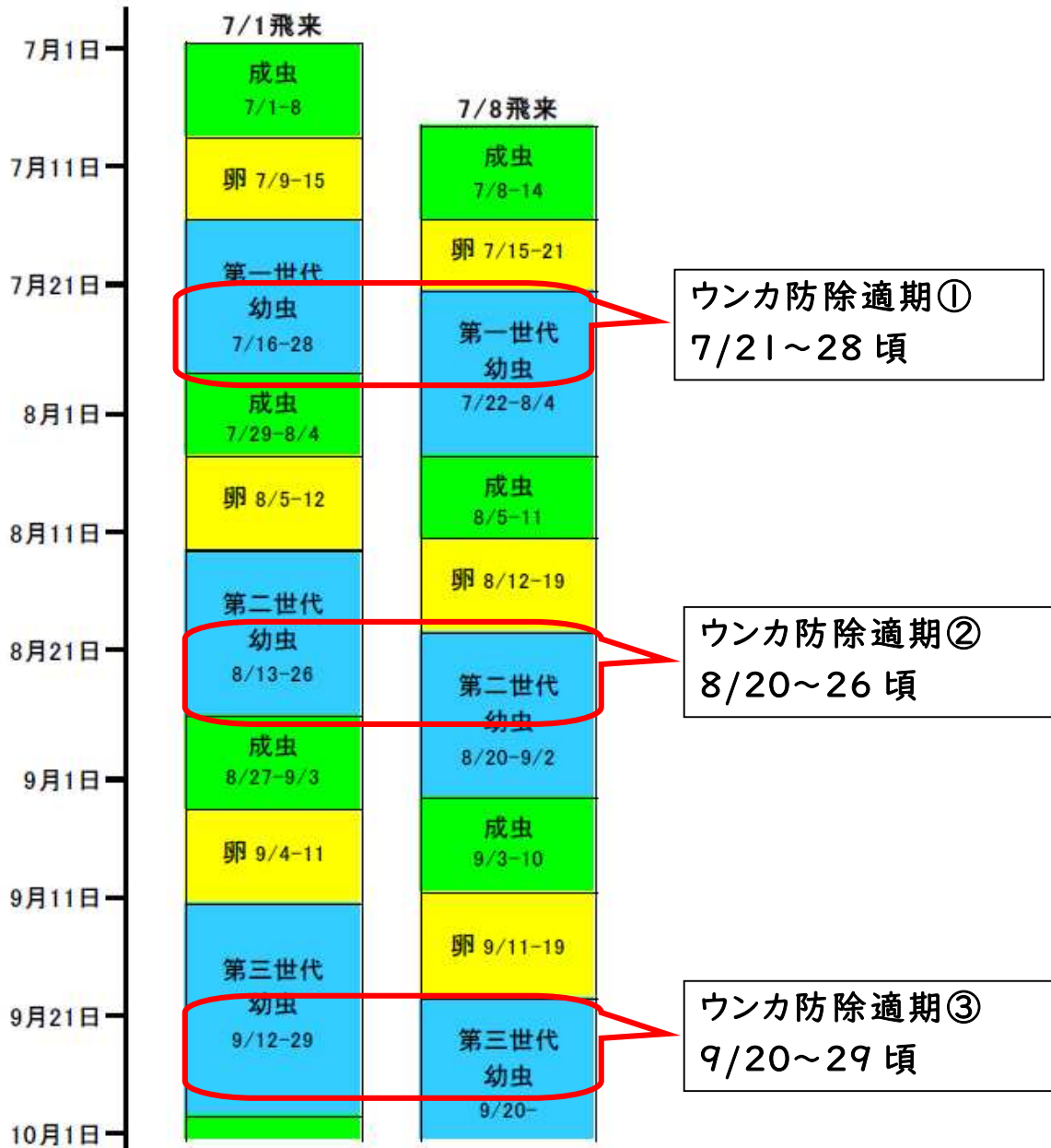


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第2版、2023年7月25日作成）

1. 6月30日～7月3日頃(図では7月1日)、7月7日～9日(図では7月8日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月25日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

コブノメイガ発生予測（佐賀県農業技術防除センター情報を改編）

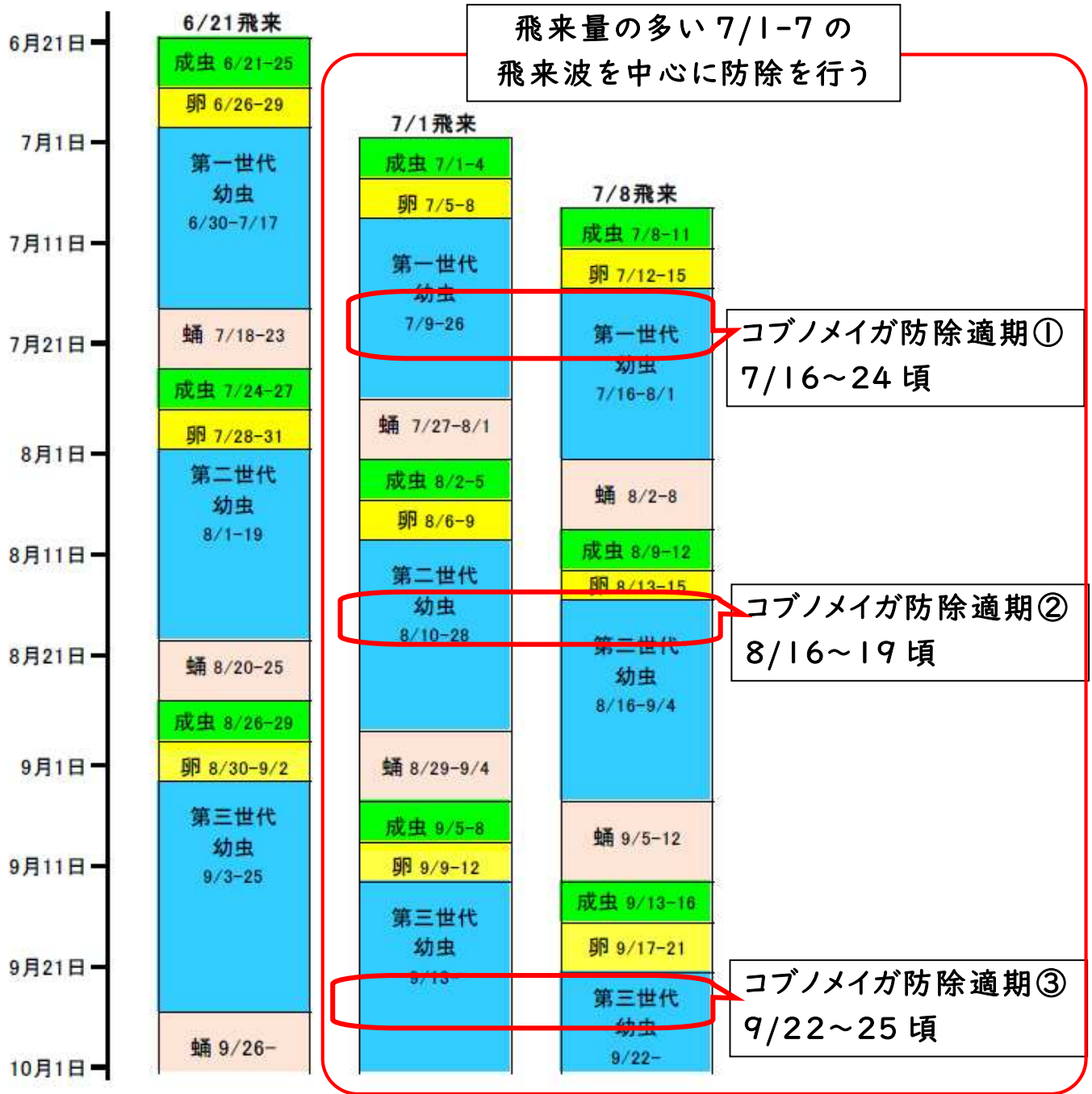


図2 コブノメイガ各世代の発生予測（第1版、2023年7月25日作成）

1. 6月21日頃、6月30日～7月3日頃(図では7月1日)、7月7日～9日(図では7月8日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月25日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

